

すばる

白岡市立南中学校
校長室通信
平成27年4月10日 No.1

★南中の特徴だと思うこと★

随時発行で、校長から先生方へ「情報提供」「考えたこと」「指導いただきたいこと」「方針」等を掲載します。時間があるときに読んでください。

すばる：プレアデス星団の和名。それぞれが自ら輝きながら、学校としてのまとまりもあることを願って。



長くその学校にいると当たり前になりがちなのが、初めて参加してみると新鮮な気持ちで気づくことがあるもの。

新入生歓迎会。入退場のアーチをもつ男子生徒。少々照れながら、それでもきちんとやっている。生徒会長は、挨拶では老練な感じがあって「先生が話しているみたいだ」とも思ったが、「恒例の、拍手の場面やテニス部の紹介では、愛すべきキャラクターを演じてくれていた。部活動紹介は、コンパクトだがメリハリがあり、発表の裏手にいる上級生たちとの間合いもよかった。動きに無駄が少なく、生徒がよく考えて動いていることがわかる。委員会紹介もかなり上質のプレゼンをやっていた。あれなら、具体的な活動がよくわかり、「自分もどこかの委員会の活動をやってみたい」とほとんどの1年生は思っただろう。画面に映し出される写真は、活動を象徴するものばかりで、作成者の才能が垣間見えた。1年生の代表者に花鉢を渡す上級生。渡しながら1年生に声をかけている。「がんばってね」なのか「よろしくね」なのかはわからないが、その表情はにこやかで視線が柔らかい。

そして、1年生のお礼の言葉。原稿は用意してあり、手に携えていたものの、それを見ずに堂々と述べていた。たいしたものだ。そう言えば、入学式の「誓いの言葉」を述べた生徒も実に立派だった。

恒例や伝統だという「拍手」「くす玉」は、南中の特徴の一つだろう。少なくともほかで見たことはない。そういうもののほかに、生徒自身に息づいている何かの片鱗を感じた1時間だった。年度初めだから、準備も大変だったことだろう。特に生徒会担当の先生には感謝申し上げたい。苦勞が多いはずだが、それを感じさせないほどのスムーズさと中身の上質さを感じることができた。生徒たちは全体として明るいだけでなく、物腰の柔らかさや視線の暖かさも併せ持っていると思えた。こういうものは、言葉で教えてどうなるものでもないもの。小学校時代からの経験や家庭でのしつけ、それに中学校での様々なプラスの体験から形成されているものに違いない。

先生方の動きもまた、よく考えられていると見える。時々だが「担当ではない」感を出してしまう人がいる学校もあるやに聞くが、当たり前のように全部の先生が関わり合いながら生徒のサポートに回っているようだった。もちろん、新参なので見えていないことも多いと思う。そこで課題があるというなら、互いの反省をきちんとして次回以降に生かしてほしい。

